

別府念仏踊

山口県指定無形民俗文化財である「別府念仏踊」は、毎年9月の第1日曜日、「別府弁天祭り」の際に、堅田巖島神社の境内で奉納されています。

この踊りは、別府弁天池の湧水（神与の水）への感謝と豊作の祈りを込めて舞われるものです。「この郷に人が住む限り念仏踊りを奉納する」ことを誓って、地域の人々の手で代々大切に受け継がれ、未来へつなぐ文化として守られています。

ジオパーク活動は、地質地形遺産だけではなく、このような大地の恵みに支えられてきた地域の人々の暮らしと深く結びついた有形・無形文化遺産も保護しながら次世代へつないでいく活動でもあります。



YouTubeで
発信中！



別府弁天池の水と共に生きてきた人々の暮らしを伝える紹介動画を、Mine秋吉台ジオパークの公式YouTubeに掲載しております。別府念仏踊をはじめ、水の恵みから生まれた文化や、水を活かした暮らしの様子がご覧いただけます。ぜひご視聴ください！



太鼓と鉦の音が響きます



イベント報告

7.26 sun

令和7年7月26日（日）に、「夏休み！大正洞コウモリツアー」を開催しました。当日は、小学生以下の子どもから大人まで、20名の参加がありました。

秋吉台科学博物館の石田学芸員が、洞窟内に生息するコウモリなどの生き物について説明した後、「生き物つながりマップ」をつくるワークショップを行いました。参加者は、コウモリを中心に、ラムサール条約登録湿地である秋吉台地下水系の生き物のつながりについて考えました。

その後、大正洞を見学し、実際にコウモリやクモ、ヤスデなどの生き物を観察したほか、超音波を音にする機械を使ってコウモリの鳴き声を聞くなど特別な体験も行いました。

今回のイベントを通して、地元の洞窟や生き物同士のつながりについて、関心を持っていただくきっかけになったと思います。



Mine秋吉台ジオパークが ユネスコ世界ジオパーク UGGpになったら、どうなるの？

part 5

◆ 自然を愛する観光客が増える編 ◆

UGGpはどれも独自の特徴があるので、「UGGpになれば必ずこうなる！」とは言い切れませんが、UGGpになった地域の話を見ると、UGGpになったことで「自然環境を楽しみたい」・「環境に負荷を与えない観光がしたい」・「観光しながら学習したい」といった意識を持つ観光客が増えたケースが多いようです。多くのUGGpではガイド付きツアー、トレッキング、サイクリングなど、自然環境にダメージを与えないよう配慮された野外体験を提供しているので、旅行先について勉強しながら自然に触れたいと考える観光客にとっては、UGGpはピッタリの観光地だと言えます。UGGpは自然科学分野で国際事業を実施しているユネスコに認められた地域なので、もっと多くの自然を愛する観光客の方から旅行先として選択してもらえそうです。Mine秋吉台ジオパークでも、「自然大好き・アウトドア派・エコ意識が高い・勉強熱心」な観光客がどんどん増えそうですね。このような観光客の心をつかむアクティビティや施設は既に揃っているので、それらをどんどん充実させ、今後訪れる観光客に喜んでもらえるジオパークになっていけたらと思います！

続く